

# 會 務 報 告

第 25 卷 第 11 號 昭和 14 年 11 月

## 役 員 會

### 第 13 回理事會 (昭. 14. 9. 25.)

出席者: 八田會長, 谷口副會長, 山崎, 高橋, 稻葉各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

### 報 告

1. 東北支部第 10 回役員會議事を報告せり。
2. 東北支部商議員岡崎信雄君, 小出製治郎君は退任し宮本保君, 近藤信一君新任せり。
3. 25 周年記念事業資金調達の経過を報告せり。

### 議 事

1. 早稲田大学専門部工科へ土木學會誌を寄贈することとせり。
2. 第 4 回日本工學會土木學會講演委員會委員に次の諸君を依頼することとせり。

高橋嘉一郎君	和田重辰君	福田武雄君
廣瀬孝六郎君	伊藤信君	大石勇君
太田尾廣治君	風間武雄君	黒澤喜代治君
佐藤輝雄君	嵩山道三君	本間仁君
松村孫治君	安宅勝君	

3. 支部に於て 25 周年記念事業資金を割當額以上募集したときは超過額の半額を支部に交附することとせり。
4. 朝鮮支部設立承認の上は同地方に於ける 25 周年記念廣告及賛助金に對する支部交附金は他支部と同一にすることとせり。
5. 南米及亞弗利加方面の港灣關係其の他の土木施設視察の爲會員會誌編輯委員太田尾廣治君が渡航せらるゝを機會に本會より同地方に於ける調査を依託し費用として 300 円を贈呈することとせり。
6. 入退會の件別紙の通り承認せり。

### 第 14 回理事會 (昭. 14. 10. 9.)

出席者: 八田會長, 谷口副會長, 山崎, 高橋, 和田, 稻葉各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

### 報 告

1. 日本工學會評議員會議事を報告せり。

### 議 事

1. 會誌編輯委員會委員太田尾廣治君, 伊藤信君退任に依り後任として安藝皎一君, 藤野義男君を依頼することとせり。
2. 臺中工業学校より寄贈方申出の土木學會誌は寄贈せざることとせり。

### 第 7 回常議員會 (昭. 14. 9. 25.)

出席者: 八田會長, 谷口副會長, 伊藤, 稻葉, 菊池, 鈴木, 高橋(嘉), 高橋(三), 松田, 松本, 山崎, 山中, 和田各常議員, 眞田前會長, 福留關西支部長, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

### 報 告

1. 東北支部第 10 回役員會議事を報告せり。
2. 東北支部役員の変更 (理事會議事參照)
3. 早稲田大学専門部工科へ土木學會誌を寄贈することとせり。
4. 8 月及 9 月中入退會を別紙 (省略) の通り承認せり。
5. 25 周年記念事業資金調達の経過を報告せり。

### 議 事

1. 第 4 回日本工學會大會土木學會講演委員會を設置することとせり
2. 土木學會朝鮮支部設立並に同支部規定及内規を別紙の通り承認することとせり。

### 土木學會朝鮮支部規定

- 第 一 條 京城ニ支會ヲ置キ之ヲ土木學會朝鮮支部ト稱ス
- 第 二 條 土木學會朝鮮支部ハ朝鮮在住者ヲ以テ組織ス
- 第 三 條 支部ニ支部長ヲ置キ支部ニ關スル一般事務並ニ次ノ事業ヲ委囑ス  
講演會, 見學旅行, 土木ニ關スル研究調査  
前項以外ノ事業ニ就テハ會長ノ承認ヲ受クルヲ要ス
- 第 四 條 支部長ハ本會常議員會ニ出席シ決議ニ加ハルコトヲ得
- 第 五 條 支部長ハ朝鮮在住ノ會員ノ互選ニ依リ會長之ヲ委囑ス
- 第 六 條 支部長ノ任期ハ一箇年トス

第七條 支部=次ノ役員ヲ置キ支部長之ヲ委嘱シ會長=報告スルモノトス

評議員 若干名  
幹事長 一名  
幹事 若干名

第八條 支部長ハ必要ニ応ジ支部=次ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事 一名  
書記 若干名

第九條 支部長ハ毎年十月ニ於テ翌年一月ヨリ十二月ニ至ル一箇年收支豫算ヲ調製シ會長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 支部長ハ毎年一月十日迄ニ於テ前年中ノ收支決算並ニ事業一般ニ付會長ニ報告シ收支決算ニ付テハ其ノ承認ヲ受クルモノトス

第十一條 支部長ハ支部役員ノ數、任期、其ノ他ニ關スル内規ヲ作製シ會長ノ承認ヲ受クルモノトス

#### 附 則

第十二條 第一回ノ支部長ハ發起人會ノ選舉ニ依リ會長之ヲ委嘱ス

#### 土木學會朝鮮支部内規

第一條 支部=支部長ノ外次ノ役員ヲ置ク

評議員 十四名  
幹事長 一名  
幹事 四名

第二條 評議員ハ支部總會ニ於テ選舉シ支部長之ヲ委嘱ス

幹事長及幹事ハ評議員會ニ於テ選定シ支部長之ヲ委嘱ス

役員ニ缺員ヲ生シタル場合ハ役員會ニ於テ補選スルコトヲ得

第三條 評議員ノ任期ハ二箇年トシ毎年支部總會ニ於テ改選ス

前條第三項ニヨリ補選サレタル評議員ノ任期ハ前評議員ノ任期ヲ以テ其ノ任期トス

幹事長及幹事ノ任期ハ別ニ之ヲ定メス

第四條 役員會ハ必要ニ応ジ支部長之ヲ招集ス

支部長ハ退任後ニ於テモ役員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第五條 役員會ノ議事ハ役員七名以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 總會ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ト認メタル場合ハ役員會ノ決議ニ依リ隨時之ヲ開催ス

第七條 内規ノ改廢ハ役員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第八條 評議員會ノ承認ヲ經テ各道ニ部會ヲ設クルコトヲ得

#### 附 則

第一條 第一回評議員ハ發起人之ニ當ル

第二條 第一回評議員ノ半數ハ抽籤ニ由リ其ノ任期ヲ一箇年トス

### 總 務 部 記 事

#### 工學會大會第1回土木學會講演委員會(昭.14.10.4.)

出席者: 山崎委員長, 高橋, 和田, 福田, 廣瀬, 大石, 太田尾, 風間, 黒澤, 佐藤, 本間, 松村, 安宅各委員, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 志村囑託

#### 協議事項

福田委員より日本工學會大會講演委員會に於ける協議事項の報告あり議事に入る。

1. 部會に於ける講演數及講演者選定に就ては山崎委員長, 福田, 廣瀬兩委員に於て協議することとせり。
2. 論文募集會告を 11 號會誌に掲載することとせり。

#### 工學大會第2回土木學會講演委員會(昭.14.10.11.)

出席者: 山崎委員長, 廣瀬, 福田, 安藝, 大石, 太田尾, 黒澤, 佐藤, 藤野, 松村, 安宅, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 糸川編輯主任, 志村囑託

#### 協議事項

1. 部門別, 講演題目數, 講演者推薦方依頼先その他に關し小委員の原案に依り協議し表-1 の如く決定せり。

2. 論文募集の會告には日本工學會大會規則, 講演部門内容(邦文), 論文提出に關する注意並に土木部會としての論文募集要綱及応用力學に關する募集要綱を登載することとせり。

3. 論文提出期日を次の如く決定せり。

土木部會にありては 題目を 11 月 20 日, 梗概を 1 月末日までとす  
応用力學にありては 題目及梗概を 11 月末日までとす

4. 本大會土木部會講演(梗概)集を發刊することを可とし理事會に對し希望することとせり。

表-1. 第4回日本工學會大會講演會(土木部會)

部門別	割當日時	割當室*	座席數	割當講演題目數**	講演者推薦方依頼先***
1. 橋梁及構造物(鉄筋コンクリートを含む)	4月3日午後 4日午前及午後	部會第1室	228	45(33)	吉田, 田中, 福田, 安宅
2. 河川, 運河, 灌溉, 砂防	3日午後	" 第2室	228	15(14)	高橋(嘉), 本間, 安藝
3. 港 灣	4日午前	" "	"	15(14)	關, 嶋野, 黒田
4. 水力發電	" 午後	" "	"	15(18)	高橋(三), 内村, 大石
5. 測 量	3日午後	" 第3室	144		
6. 材 料 (セメント, 木材, 石材等)	"	" "	"	15(15)	青木, 當山, 風間
7. 鉄道及隧道	4日午前, 午後	" 第3室	144	30(50)	平山, 堀越, 阿曾沼, 山崎, 風間
8. 上下水道	3日午後	" 第4室	64	15(10)	草間, 廣瀬
9. 都市計畫	4日午前	" "	"	15(16)	春藤, 黒澤
10. 道 路	" 午後	" "	"	15(15)	藤井, 金子(源), 和田, 松村

備考 \* 部會第1室(經)7號室 2階  
 " 第2室(經)13號室 3階  
 " 第3室(文)11號室 3階(暗室設備付)  
 " 第4室(文)5號室 2階  
 " 第5室(法)2號室 1階, 部會受付及講演者準備室,

\*\* 括弧内の數字 前回の大會に於ける講演題目數

\*\*\* 講演者推薦方依頼先は参考に止め當該科目擔任の編輯委員之れが責任を負ふ。

### 第2回25周年記念講演委員會(昭. 14. 10. 4.)

出席者: 草間委員長, 井上, 久保田兩座長, 和田, 廣瀬, 大石, 太田尾, 風間, 黒澤, 佐藤, 本間, 松村, 安宅各委員, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 志村囑託

#### 協議事項

1. 記念講演會に於ける講演進行その他に關し協議し各係に次の諸君を依頼することとせり。

會場係: 當山道三君, 風間武雄君

講演者係(図面係) 佐藤輝雄君, 松村孫治君, 黒澤喜代治君

進行係(信號係) 大石 勇君, 本間 仁君,

### 編輯部記事

#### 第10回會誌編輯委員會(昭. 14. 10. 11.)

出席者: 廣瀬委員長, 安藝, 大石, 太田尾, 黒澤, 佐藤, 藤野, 本間, 松村, 安宅各委員, 糸川, 志村編輯囑託

#### 協議事項

1. 會誌第25卷第10號所載謝禮を決定せり。

2. 會誌第26卷第1號登載記事を下記の如く決定せり。

論說報告: 東京に於ける高速鉄道の計畫に就て(會,

須之内文雄), 枕木更正處理の一考察(會, 千秋邦夫), エネルギー法による多張間高層ラーメンに對する固有振動週期の實用算法(會, 酒井忠明)

彙報: 發電用馬蹄形水路断面計算法(會, 有坂誠喜)

抄録: 最大垂矢が與へられた場合にケーブルの水平引張力を簡単に求める方法, 水門流出水の理論的並に實驗的研究, 地下水流量の新公式, 新光学的応力測定器, 特殊ポルトランドセメント, 木材の不均等收縮, 木材断面周縁部分の強度に及ぼす影響に就て, 破碎白雲石を用ひた振動コンクリート, 鉄筋コンクリート梁に於ける斜筋筋の熔接, 鉄筋コンクリート梁及橋承に關する一實驗, 風力發電に就て, 基礎破壊による Fort Peck Dam の大滑動, Mississippi 下流に於ける最初の洪水調節堰堤, 開室建設に就ての問題, 歐洲最長の電化鉄道完成す, サンフランシスコオークランド橋梁の信號及聯動裝置, 劃期的な木製拱架, ドイツに於ける熔接鋼橋事故に就て, 米國に於ける貨取高速度道路工事用機械に於ける革新

### 東北支部記事

#### 第10回役員會(昭. 14. 9. 19.)

出席者: 鶴見支部長, 金森, 内田, 上山, 飯島, 薄

田, 後藤(季), 後藤(久), 叶, 佐々木各商  
 議員, 三島幹事長, 門澤, 中津海兩幹事,  
 菊田主事

議 事

1. 商議員補缺選舉の件
2. 支部秋季行事の件
3. 土木工学講演會開催の件
4. 25周年記念事業資金募集の件
5. 會員増加勧誘に関する件
6. 懸賞寫眞募集勧誘の件

役員の移動

商議員	退 任	新 任
	宮本 保君	岡崎 信雄君
	近藤 信一君	小出 興治郎君

日本工学会記事

昭和 14 年 9 月 18 日日本工学会評議員會を開き一  
 般會務の報告あり次で下記事項を決議せり。

1. 眞野前理事長樞密顧問官就任祝賀會開催の件

そ の 他 記 事

昭和 14 年 10 月 1 日土木学会誌第 25 卷第 10 号  
 を發行成規の手續きを了し全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

會 員 (入 會)

鈴木 武門君 日本輕金屬會社

山岡 敬介君 朝鮮總督府内務局土木課

荒川 完君 吉林省土木廳  
 石川 良保君 昭和電力會社  
 泉 彌 四郎君 富山縣土木部  
 大江 勘太郎君 "  
 大畑 潔美君 日本製鐵會社  
 岡田 淳君 富山縣土木部  
 北原 三三君 "  
 阪本 榮治君 和歌山縣土木課

准 員 (入 會)

下屋 敷庄市君 日本製鐵會社  
 高島 一郎君 富山縣土木部  
 丹 龍三郎君 樺太廳交通部鉄道課  
 柘 植 二三君 滿洲三江省開拓廳建設科  
 德 永 充夫君 松江公立工業学校  
 中村 定雄君 樺太廳交通部鉄道課  
 西村 忠利君 日本製鐵會社  
 平田 伊作君 鹿兒島縣大島支廳土木課

前田 久雄君 大阪府土木部  
 三 浦 一君 樺太廳交通部鉄道課  
 水野 鉉三君 富山縣土木部  
 山本 正博君 樺太廳交通部鉄道課  
 富田 耕三君 滿鉄綏化工務區  
 齋藤 健一郎君 福岡縣廳土木部道路課

学 生 員 (入 會)

小名 正久君 日大工学部  
 王 者 風君 哈爾濱工業大学  
 王 世 隆君 "  
 賈 志 誠君 "  
 下村 豊君 京都帝大  
 蕭 慶 鈞君 哈爾濱工業大学  
 上 樂 文二君 關西高工  
 沈 元 超君 哈爾濱工業大学

鄒 國 琛君 哈爾濱工業大学  
 孫 庭 先君 "  
 張 紹 鄉君 "  
 張 正君 "  
 張 德 文君 "  
 鄒 泰 新君 "  
 橋本 健之助君 日大工学部  
 花 房 保君 神戸高工

古 井 豊君 哈爾濱工業大学  
 彭 明 守君 "  
 楊 寶 樹君 "  
 吉田 廣太郎君 武蔵高工  
 宋 在 弘君 京城高工  
 林 孝 弘君 山梨高工

會 員 (転 格)

安部 康久君 朝鮮京城土木出張所  
 青木 德三郎君 株式會社間組  
 青田 忠君 大倉土木會社  
 淺井 周二君 京都府土木部監理課

淺川 市太郎君 日本金屬會社  
 淺野 英君 神奈川縣都市計畫課  
 東 壽君 内務省下關土木出張所  
 天 埜 良吉君 内務省仙臺土木出張所

網谷 辰正君 東北振興電力會社  
 新井 義輔君 電氣廳水力課  
 有田 直助君 株式會社 飛鳥組  
 井上 映君 大阪府土木部橋梁課

伊井肆郎君 大倉土木會社  
 伊藤日吉君 華北交通會社  
 飯塚博君 華北交通會社  
 池田雄二君 大阪府土木部  
 石川祐三郎君 青森保線事務所  
 乾市太郎君 東鉄工務部  
 岩隈儀一郎君 東京市水道局下水課  
 岩崎善吾君 齊々哈爾鐵道局工務課  
 岩永俊彦君 神奈川縣土木部道路課  
 植草定太郎君  
 遠藤佐五右衛門君 長野縣土木部砂防課  
 遠藤隆一君 内務省神戸土木出張所  
 小倉兼友君 株式會社 問屋  
 小澤義男君 滿洲交通部圖們土木建設處  
 小田仁君 鐵道省東京第二工事事務所  
 小野一良君 鐵道省岐阜工事事務所  
 尾上喜晴君 德島高工  
 尾形榮次郎君 東京市小河内貯水池建設事務所  
 大崎洋三君 南滿工務技術課  
 大辻勝治君 内務省仙臺土木出張所  
 大橋健一君 日本發達會社  
 太田弘君 日本アルミニウム會社  
 岡本舜三君 愛媛縣土木課  
 奥澤博一君 日立製作所  
 奥村芳定君 内務省新潟土木出張所  
 奥山才次郎君 關東洲小野田セメント製造會社  
 加賀美一二三君 山梨高工  
 加藤清次君 大倉土木會社  
 加藤長兵衛君 宮城縣土木部

加藤博君  
 香川文夫君 鹿兒島縣陸南工業學校  
 海沼秋雄君 長野縣土木部  
 柏原清助君 東邊道開發會社  
 梶原景雄君 神戸市水道部工務課  
 片岡紀一君 大阪府土木部  
 桂川輝長君 株式會社玉造船所  
 神谷貞吉君 日大工学部  
 川崎三則君 滿洲北安省開拓廳建設科  
 河野正敏君 株式會社 鹿島組  
 菅野眞三郎君 宮城縣土木部  
 菅野秀夫君 北海道函館土木事務所  
 岸榮君 上海恒産會社  
 北田勇君 宮崎縣電氣建設部  
 桐明雙一君 朝鮮鴨綠江水電會社  
 黒川忠義君 株式會社 清水組  
 小石勝三郎君 戸畑土木課  
 小林二郎治君 滿洲交通部齊々哈爾土木建設處  
 米谷榮二君 京都帝大  
 近藤健武君 富山縣土木課  
 權藤刺五郎君 滿鉄東安工務區  
 佐川榮次郎君 山形縣土木課  
 佐々木左助君 内務省仙臺土木出張所  
 佐々木心策君 奉天市公署都邑計畫科  
 佐治裕君 内務省新潟土木出張所  
 佐藤寛君 東京電燈會社  
 酒井信男君 青森縣土木課  
 榊原清太郎君 内務省名古屋土木出張所  
 清水源長君 三井鐵山會社

鹽川揚君 東邦電力會社  
 篠田義直君 内務省新潟土木出張所  
 篠原謙爾君 九州帝大  
 篠村英夫君 小樽市港灣事務所  
 澁谷信夫君 株式會社利根ボーリング  
 島倉彦平君 富山縣電氣局  
 島崎茂一君 石川縣土木課  
 白石虎雄君 九州電氣軌道會社  
 白髭宗雄君 滿鉄々道總局工務局改良課  
 梶本吉郎君 内務省下關土木出張所  
 會原利治君 滿鉄關門工務區  
 曹永祥君 滿洲龍江省公署土木科  
 福島善雄君 鳥取縣土木課  
 宗宮義正君 朝鮮釜山土木出張所  
 蘭川清君 大阪市港灣部  
 田中潤平君 東北振興電力會社  
 田中忠治郎君 金剛山電氣鐵道會社  
 田村勝好君 内務省福託  
 高橋孝一君 大阪市港灣部技術課  
 竹内秀造君 東京振興電力會社  
 竹内宮竹君 滿洲錦州省阜新縣都邑建設局  
 竹重貞藏君 福岡縣都市計畫課  
 武田良平君 東北振興電力會社  
 谷垣博君 内務省仙臺土木出張所  
 土田喜三次君 九州電氣軌道會社  
 土志田練達郎君 北海道網走土木現業所  
 徳岡堅三君 大阪府土木部河川課  
 富田高明君 岩手縣立工業學校

准 員 ( 転 格 )

土 木 学 會 々 員 數

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
3 329	4 254	1 184	85	21	8 823

會 員 工学博士 岡 胤信君 昭和 14 年 10 月 8 日逝去せられたり、本會は靈

前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表せり

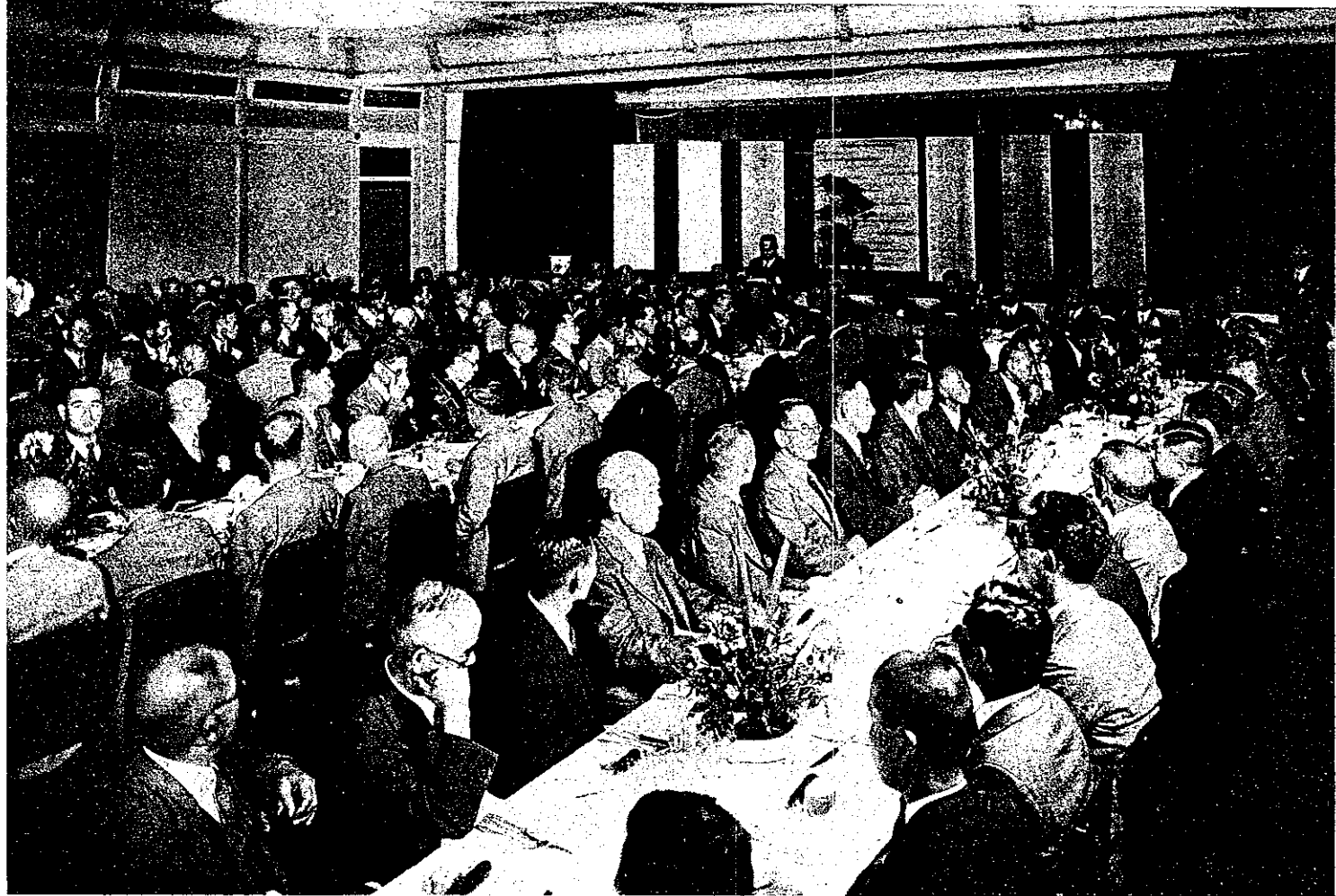
會 員 渡邊時敏君、藤田健次君、清水綱賀君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の  
意を表す

准 員 福谷高明君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

学生員 大野昌恭君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

土木學會創立 25 周年記念晚餐會

(昭和 14 年 10 月 18 日 於上野精養軒. 立てるは八田會長)



土木學會創立 25 周年記念見學會 (會務報告欄参照)

大宮公園に於ける一行



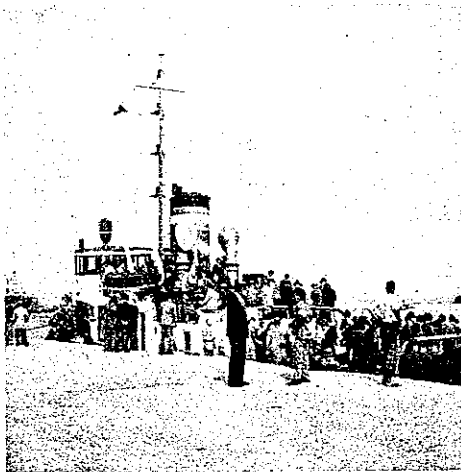
谷口副會長挨拶 (大宮公園にて)



濱松町恩賜公園に於て



芝浦棧橋に於て



海光丸上に於ける一行



キリンビール工場見学

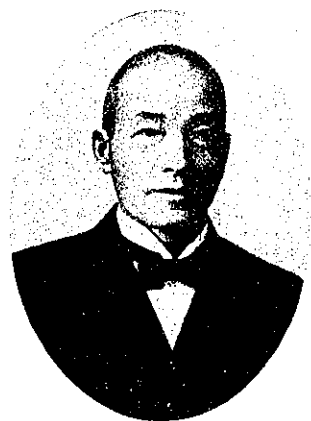






(第 1 代)  
故 工學博士 男爵 古市公威君

古市公威



(第 2 代)  
故 工學博士 沖野忠雄君

沖野忠雄



(第 3 代)  
工學博士 野村龍太郎君

野村龍太郎



(第 4 代)  
故 工學博士 石黒五十二君

石黒五十二



(第 5 代)  
故 工學博士 白石直治君

白石直治



(第 6 代)  
故 工學博士 廣井 勇君

廣井 勇



(第 7 代)  
故 工學博士 仙石 貢君

仙石 貢



(第 8 代)  
故 工學博士 原田 貞介君

原田 貞介



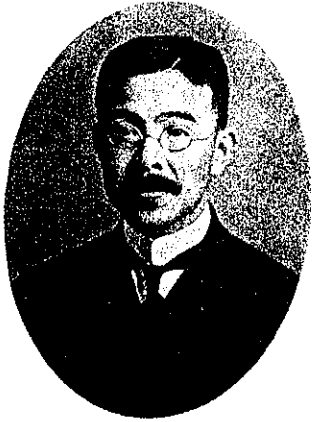
(第 9 代)  
工學博士 古川 阪次郎君

古川 阪次郎



(第 10 代)  
故 工學博士 中原 貞三郎君

中原 貞三郎



(第 11 代)

故 工學博士 中山秀三郎君

中山秀三郎



(第 12 代)

故 工學博士 中島銳治君

中島銳治



(第 13 代)

故 工學博士 日下部辨二郎君

日下部辨二郎



(第 14 代)

故 工學博士 吉村長策君

吉村長策



(第 15 代)

故 工學博士 市瀬恭次郎君

市瀬恭次郎



(第 16 代)  
工学博士 岡野 昇君

岡野 昇



(第 17 代)  
工学博士 田邊 朔郎君

田邊 朔郎



(第 18 代)  
工学博士 中川 吉造君

中川 吉造



(第 19 代)  
工学博士 那波 光雄君

那波 光雄



(第 20 代)  
工学博士 名井 九介君

名井 九



(第 21 代)  
工学博士 眞田 秀吉君

眞田 秀吉



(第 22 代)  
工學博士 男爵 久保田敬一君

久保田敬一



(第 23 代)  
工學士 青山 士君

青山 士



(第 24 代)  
工學士 井上秀二君

井上秀二



(第 25 代)  
工學博士 大河戸宗治君

大河戸宗治



(第 26 代)  
工學士 辰馬鎌藏君

辰馬鎌藏



(第 27 代)  
工學士 八田嘉明君

八田嘉明



# 會 告

## 土 木 学 會 關 西 大 會

昭和 14 年 11 月 19 日 (日曜日) 神戸市に於て下記の如く土木学会  
關西支部主催關西大會が開催されますから、各方面多數會員の御出  
席を希望します。

關西支部管外の會員にして出席希望者は前以つて下記宛御申込み願ひます。

神戸市上筒井舊關西学院中学部跡  
阪神水道組合氣付

土木学会關西大會委員會

### (I) 開 會 式 及 講 演

(午前 8.30~11.30) 於神戸高等工業学校

開會之辭: 支部長 福 留 並 喜

講 演:

- |                |        |              |
|----------------|--------|--------------|
| 1. 神戸高工教授      | 江藤 禮君  | 楢岡積分の応用例     |
| 2. 内務省神戸土木出張所長 | 原口忠次郎君 | 遼河改修計畫       |
| 3. 兵庫縣土木部長     | 山口十一郎君 | 六甲山系の水害復興に就て |
| 4. 神戸市下水課長     | 野田 甞六君 | 歐米の下水道       |
| 5. 京都帝大助教授     | 小林 勇君  | 獨逸の鉄道        |

### (II) 見 学 (午後 0.00~5.00)

見学個所: 日本製鐵株式会社廣畑製鐵所

### (III) 懇 親 會 (午後 6.00~8.00) 於神戸市 東亞樓

土 木 学 會 關 西 支 部

# 會 告

## 第 4 回 工 学 會 大 會 の 論 文 募 集

明昭和 15 年 4 月 3 日及 4 日の兩日に亘り東京に於て第 4 回工學會大會が開催されますが、右大會に於て發表すべき論文の提出に關する注意が次の如く公表されましたから以下の注意及大會規則等を参照の上多數會員の論文提出を希望致します。

### 第 4 回 工 学 會 大 會 規 則 (日 本 工 学 會)

#### 第一章 會ノ名稱、時期及場所

第 一 條 本大會ハ之ヲ第四回日本工學會大會ト稱シ昭和十五年四月東京ニ於テ之ヲ開催ス

#### 第二章 會ノ目的

第 二 條 本大會ハ東洋諸國ニ於ケル各國ノ工学及工業關係者協同シテ次ニ掲クル事項ヲ遂行スルヲ以テ目的トス

1. 工学及工業ニ關スル論文ノ發表及意見ノ交換ヲ爲シ以テ智識ヲ増進シ且懇親ヲ図ルコト
2. 發表ノ論文、意見並決議ヲ記録シテ工学及工業ニ關スル參考資料ト爲スコト

#### 第三章 會議及施設

第 三 條 本大會ハ總會及部會ノ二種トシ更ニ第二條ノ目的ヲ達成スル爲メ次ノ事業ヲ行フ  
見學、記録ノ出版、工業ニ關スル展覽會、其ノ他會議ノ目的達成ニ必要ナル事項

第 四 條 總會ニ於テハ重要事項ノ審議及報告並會員ヨリ提出セラレタル決議事項ヲ審議ス

第 五 條 部會ニ於テハ論文ヲ發表シ之ニ對スル意見ヲ交換ス

部會ハ發表セラルベキ論文ノ種類ニ應シ適宜數箇ニ分類シテ之ヲ設ク

第 六 條 見學ハ東京地方ヲ主トス 但シ海外ヨリ來朝ノ會員ニ對シテハ其ノ他ノ地方ニ涉リ之ヲ行フコトアルヘシ

第 七 條 本大會ニ於テ發表セラレタル論文、意見、決議ハ之ヲ刊行ス

第 八 條 展覽會ハ主トシテ日本帝國内ノ工業ニ就キ會期中適當ノ場所ニ之ヲ開ク

#### 第四章 會ノ役員

第 九 條 本大會ニ會長、副會長、委員長、委員ヲ置ク

本大會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第 十 條 會長ハ日本工學會理事長ニ當ル

會長ハ本大會ヲ統轄ス

第十一條 副會長ハ日本工學會社員タル各學會々長ニ當ル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 委員長ハ委員ノ互選ニヨリ決ス

委員長ハ大會委員ノ事務ヲ統轄ス

第十三條 委員ハ日本工學會社員タル各學會ノ推薦ニ係ルモノ及ビ日本工學會理事會ノ推薦ニ係ルモノニツキ日本工學會理事長ニ之ヲ囑託ス

委員ハ庶務、講演、見學、展覽會、記録、會場、接待、晩餐會ノ區分ニ依リ各委員會ヲ組織シ本大會ノ計畫及實施ニ關スル事項ヲ分擔ス



第十四條 各委員會ニハ夫々主任ヲ置キ各委員會ノ事務ヲ主裁ス

各委員會主任ハ委員總會ニ於テ選舉ス

第十五條 各委員會主任ヲ以テ主任委員會ヲ組織シ大會委員長ヲ以テ之ガ委員長ニ充ツ

主任委員會ニ於テハ各委員會ノ連絡及特ニ定メラレタル事項ヲ審議ス

主任委員會ハ常ニ日本工学会理事ト連絡ヲ取ルモノトス

第十六條 日本工学会理事ハ會長及ビ委員長ヲ輔佐シ委員ト共ニ大會事務遂行ノ任ニ當ル

第十七條 委員ノ職務ヲ輔佐スル爲メ事務員ヲ置ク

事務員ハ日本工学会理事長之ヲ囑託ス

## 第五章 會員ノ種類及資格

第十八條 會員ノ種類ヲ次ノ四種トス

1. 代表 2. 名譽員 3. 正員 4. 客員

第十九條 代表ハ各國ノ官術、大学、専門学校、學會、協會其ノ他ノ學術的諸機關ノ代表者トス

大学、専門学校、學會、協會其ノ他ノ學術的諸機關ノ存在セザル國ニ在リテハ之ニ準スベキモノノ推薦ニ係ル者ヲ以テ代表ト爲スコトヲ得

第二十條 名譽員ハ日本工学会評議員會ノ決議ニ依リ推薦セラレタル者トス

第二十一條 正員ハ工學及工業ニ關係アル各國ノ諸學會協會其他學術的諸機關ノ會員ニシテ參會ノ申込ヲ爲シタル者トス

前項ノ外參會ノ申込ヲ爲シタル者ニシテ本大會主任委員會ニ於テ前項會員ニ準スル者ト認メタル者ハ之ヲ正員トス

第二十二條 客員ハ本會ヨリ招待シタル者竝代表、名譽員又ハ正員ノ夫人及本大會主任委員會ノ淫術ヲ經タル同伴者トス

第二十三條 代表、名譽員及正員ハ總會及部會ニ出席シ其ノ決議ニ加ハリ且見學其ノ他本會ノ各種施設ニ參加スルコトヲ得

客員ハ前項ノ會員ト同一ノ待遇ヲ受ク 但シ決議ニ加ハルコトヲ得ス

## 第六章 論文ノ範圍及條件

第二十四條 本大會ニ提出スヘキ論文又ハ報告ノ範圍ハ工學及工業ノ總テノ部門ニ涉リ其ノ關係箇所ノ地域ヲ限定セザルモノトス

第二十五條 論文又ハ報告ハ指定題目ニ依ルモノ及任意題目ニ依ルモノノ二種トス

第二十六條 指定論文又ハ報告ノ題目ハ講演委員會ニ於テ之ヲ選定シ任意題目ニ就キ提出ノ論文又ハ報告ハ會議ノ目的ニ適合スルヤ否ヤニツキ講演委員會ニ於テ之ヲ審査ス

前項論文又ハ報告ハ日本語ヲ以テ記述スルモノトス、但シ英語又ハドイツ語ニ依ルヲ妨ケス

第二十七條 論文又ハ報告ハ講演委員會ニ於テ審査ノ上次ニ掲グル方法ノ1ニ依リ之ヲ處理ス

1. 全部ヲ發表ス

2. 所論ノ要旨ノミヲ發表ス

3. 所論ノ項目ノミヲ發表ス

前項發表ノ方法ハ總會又ハ部會ニ於ケル朗讀、演述若ハ印刷配布ノ方法ニ依ル

## 第七章 論文題目ノ種類

第二十八條 論文ノ種類ハ別ニ定ムル論文種別ノ通りトス

## 第八章 用語

第二十九條 總會及部會ニ於テ用フベキ國語ハ日本語トス

但シ英語又ハドイツ語ヲ使用スルヲ妨ケス

## 第九章 會費

第三十條 正員ハ參加會費トシテ金五圓ヲ支拂フモノトス 但シ日本工学会ノ社員タル各學會ノ會員ノ參加會費ハ金五拾錢トス

## 第十章 細 則

第三十一條 本規則ニ規定スルモノ外必要ナル事項ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

細則ハ主任委員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

### 第4回日本工学会大會講演部門內容

- (1) 工学及工業ニ關スル一般の諸問題（工学会擔當）  
工学教育，工学の研究ノ統合及促進，統計，規格及標準化，科学的管理法，工業技術者ノ國際的協力等
- (2) 応用力学（工学会擔當）  
彈性論，材料力学，構造力学，材料ノ機械的性質，工業力学，構造物及機械ノ振動，流体力学，水力学，熱力学，熱傳播等
- (3) 建築工学（建築学会擔當）  
建築計畫，建築歴史，都市計畫，住宅問題，建築材料，建築構造，採光換氣，建築音響，耐火，耐震，耐風建築，防空建築等
- (4) 土木工学（土木学会擔當）  
橋梁及構造物，鉄道，港灣，河川，運河，灌溉，水力發電，上下水道，道路，都市計畫，測量等
- (5) 電氣工学（電氣学会擔當）  
電氣物理，電氣測定，電子管，電氣材料，電氣機器，發送配電，電氣鉄道，電動力応用，電氣化学等
- (6) 通信工学  
有線電信，有線電話，無線電信，無線電話，電報發送，無線放送，無線標識，電視，鉄道信號，光線電話，水中電話等
- (7) 照明工学（照明学会擔當）  
光源，照明，測光，電熱等
- (8) 機械工学（日本機械学会擔當）  
熱機關（航空發動機ヲ含ム），蒸氣罐，水力機，空氣機械，工作機械，工作法，起重機及運搬設備，鉄道車輛，自動車工学，火力及水力發電所工学，紡織，機構，機案等
- (9) 精密機械及計測機器（火兵学会擔當）  
測定機械器具，ゲージ類，精密工作機械及工具，治具及取附具，材料試驗機等
- (10) 造兵工学（火兵学会擔當）  
火炮構造及理論，射擊指揮裝置，彈道学，彈丸，魚雷，機雷，火藥等
- (11) 冷凍工学（日本冷凍協會擔當）  
冷媒，冷凍機，冷凍設備，熱絕緣，冷藏庫，製氷工業，冷藏輸送等
- (12) 衛生工学（衛生工業協會擔當）  
房，換氣，空氣調和，衛生工事等
- (13) 造船学，船用機關学及航空工学（造船協會擔當）  
理論造船学，造船設計及船体構造，主及補助機關，艤裝，救命設備，施工法，工場設備，航空工学等
- (14) 化学工業（工業化学協會擔當）  
無機及有機化学工業，合成化学工業，電氣化学工業，燃料，化学工業等
- (15) 採鑛及冶金，金屬及合金（日本鑛業會，日本鉄鋼協會，日本金屬学会擔當）  
応用地質，採鑛，選鑛，鉄及非鉄冶金，金屬及合金，製造冶金等
- (16) 熔接工学（熔接協會擔當）  
熔接機器，熔接棒及被覆劑，熔接ノ手，熔接ノ応用，各種試験等
- (17) 鑄物工業（日本鑄物協會擔當）  
鋼鑄物，鉄鑄物，銅合金鑄物，輕合金鑄物等

日本金屬學會ハ本大會開催時期迄ニ正式加入豫定デアルガ若シ正式加入ガ間ニ合ハヌ場合ハ日本金屬學會擔當ノ部會ハ置カヌコト、ナリ、關係論文ハ他ノ學協會ヘ提出スルコト、ナル。

注意 (1) 各學協會所屬會員ハ其ノ所屬學協會ノ擔當部門ニ論文ヲ提出スルノ原則トスル

(2) 第一部門(工學及工業ニ關スル一般的諸問題)及第二部門(応用力學)ハ専門ヲ異ニスル者相集リ工學全般ニ亙ル諸問題ヲ討議スルタメ特ニ日本工學會ニ於テ直接部會ヲ擔當スルコト、シタモノデアル。各學協會所屬會員ニシテ之等諸問題ニ屬スル論文ニシテ他ノ部門ニモ屬シ得ル論文ヲ發表セントスル場合ニハ成ルベク之等第二部門ニ於テ發表スル事ヲ希望スル。但シ論文ノ提出ハ各所屬學協會ヲ經由スルコト。

### 論文提出に關する注意

1. 論文ニ關シテハ大會規則「第六章及第七章」參照ノコト。
2. 論文ヲ提出セントスルモノハ必ズ本大會ニ參加スルコト。但シ論文提出ガ二名以上連名ノ場合ハ少ク共一名ガ參加者タルコト。  
ニツ以上ノ學協會ニ所屬スル參加者ガ參加ヲ申込マザル學協會ニ論文ヲ提出スル場合ニハ參加申込ヲナシタル學協會名及其ノ旨ヲ附記スルコト。
3. 論文ノ形式ハ發表セントスル各自ノ所屬學協會ノ規程ニヨルコト。
4. 論文提出希望者ハ下記ニヨリ申込ムコト。
  - A. 日本工學會社員タル學協會ノ會員ハ各其ノ所屬學協會ノ規程ニ從フコト。
  - B. 前項以外ノ會員ハ昭和十四年十二月末日迄ニ其ノ題目、論文(邦文ナラバ一萬字、英文或ハ獨文ナラバ五千語以内)及梗概(邦文ナラバ千字、英文或ハ獨文ナラバ五百語以内)竝ニ講演所要時間其他映寫設備ノ要否等ヲ日本工學會ヘ通知スルコト。
5. 論文及其ノ梗概ニハ著者ノ姓名、住所、學位、稱號、職業及所屬學協會名ヲ記載スルコト。
6. 附圖ハ其ノ儘複寫シ得ル様墨書ニテ明瞭ニ認ムベキコト。
7. 寫眞ハ其ノ儘複寫シ得ル様明瞭ナルベキコト。

### 土木部會論文募集要綱

1. 土木部會ニ屬すべき部門内容は次の通りであります。
 

1. 橋梁及構造物	2. 河川、運河、灌溉、砂防	3. 港灣	4. 水力發電	5. 測量
6. 材料(セメント、木材、石材等)	7. 鐵道及隧道	8. 上下水道	9. 都市計畫	10. 道路
2. 論文提出に關しては日本工學會發表の「論文提出ニ關スル注意」の各項を參照すること。
3. 本會々員(准員、學生員を含む)にして論文の提出を希望される向きは昭和14年11月20日迄にその題目を土木學會工學會大會講演委員會宛通知すること。  
但し応用力學にありては其の題目及梗概を昭和14年11月末日迄に提出のこと。

土 木 學 會

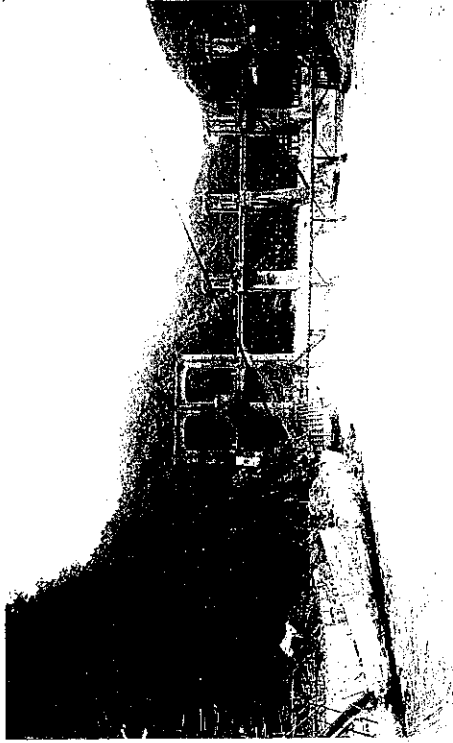
# 工事中の東北振興電力信夫発電所

(昭. 14. 8. 25. 撮影)

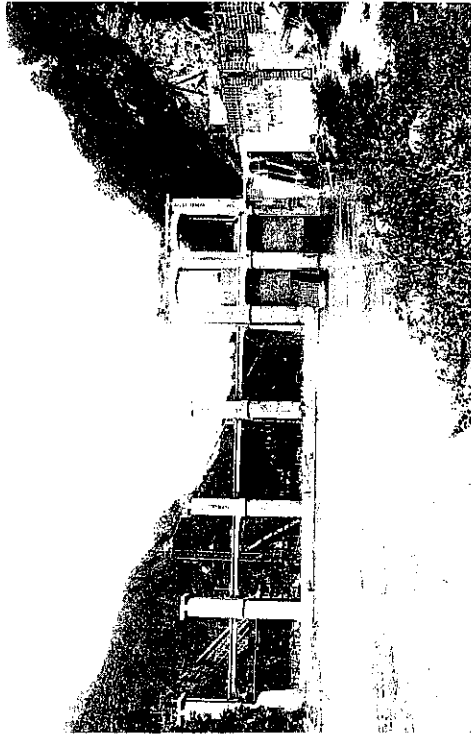
全景図 (其の 1)



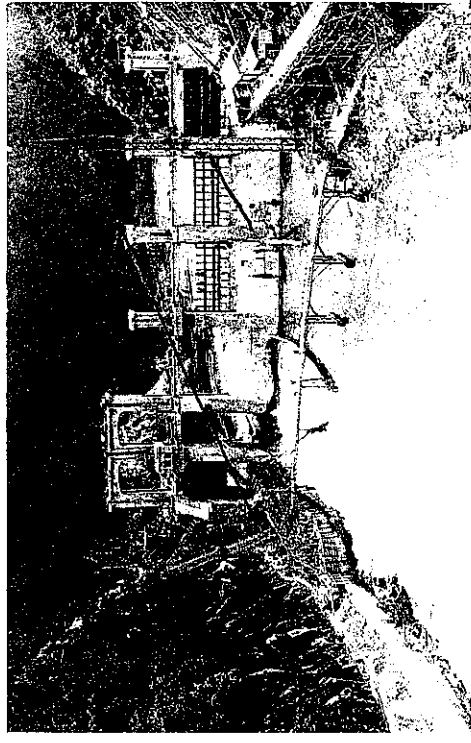
全景図 (其の 2)



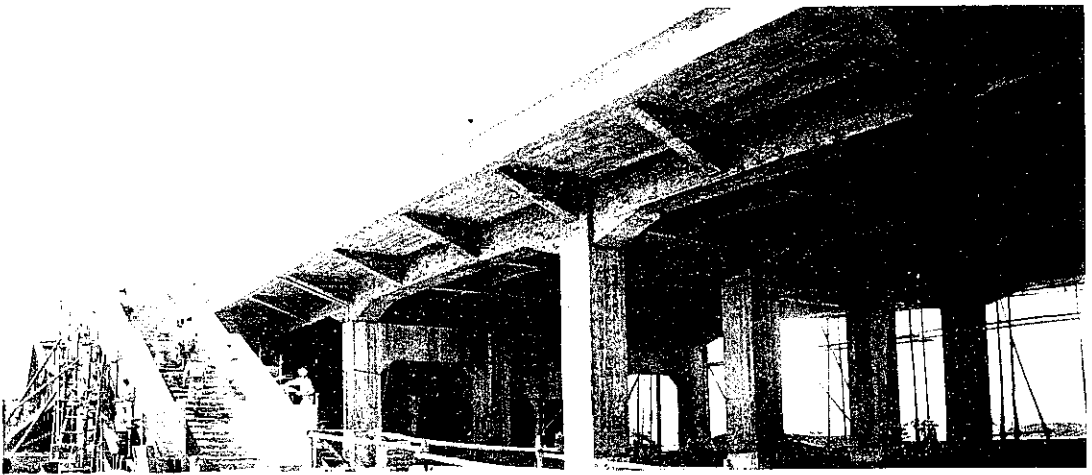
上流側より見たる調整池堰堤



下流側より調整池堰堤を望む



橋 師 大 近 功 竣



上図は下流側より見たる全景

中図は東京府側より眺む

下図は東京府側取付高架道路橋

## 図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閱覽下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自 9 月 1 日至 12 月 28 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時, 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時,  
自 1 月 4 日至 7 月 20 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時, 自 8 月 31 日

但し 日曜及祭日は休み

## 図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出で下さい。

1. 一寸法径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(附物大)

## 寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁數 頁數は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $u$ ,  $u$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $\alpha$ ,  $r$  と  $\gamma$ ,  $d$  と  $\delta$ , その他  $C$  と  $c$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる專名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。  
例へば  
25 錢（三十五錢）、13.56 円（十三円五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、  
88 326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭. 14. 1. 1.（昭和十四年一月一日）、  
m（米）、 $m^3$ （立方米）、kg（ $\text{キ}$ ）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
  6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し（本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照）。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1 等と書き図表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。  
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。  
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には強め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し、縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。  
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと認め御含み下され度し。
  8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。  
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の幾名勤務所名を添附され度し。
- 附 記 (1) 論說報告、彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。  
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には別刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には強め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

## 會員転居転勤の場合の御注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願致します。

## 會費納付につき御注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

## 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後相當日數經過しての申越は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。



# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
6	—	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	1.00
17	—	*	*	*	*	*	*	—	—	*	—	—	—	1.00
18	—	—	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	—	*	*	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	1.00
21	—	—	*	*	*	—	*	—	*	*	*	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	—	—	—	*	*	*	*	—	—	1.00
24	—	*	*	—	—	—	—	*	*	—	—	—	*	1.00
25	—	*	*	—	—	—	—	*	*	—	*	*	*	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)..... 1.50														
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)..... 1.30														
震害調査報告書 (1, 2, 3)..... 18.00														
鉄筋コンクリート標準示方書}..... 1.00														
同 上 解 説}..... 1.00														
土木工学論文抄録..... 3.50														
土木學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)..... 0.50														
土木工学用語集..... 2.50 (送料別)														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄に其の旨記入請求せられたし。

## 廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35 円	1回半頁	20 円
指定廣告	{裏表紙3面對 向及廣告初頁}	1回1頁	40 円	
		色アート	1回1頁	60 円

- 指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

---

昭和14年10月25日印刷 昭和14年11月1日發行 (定價金1円)

東京市牛込區南町33番地  
編輯兼發行者 中 村 孫 一  
東京市神田區美土代町16番地  
印 刷 者 島 連 太 郎  
東京市神田區美土代町16番地  
印 刷 所 三 秀 舎

---

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 法 人 土 木 学 會

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

# DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXV, NO. 11, NOVEMBER 1939.

## CONTENTS

	Page
<b>Proceedings of the Society</b> .....	81
<b>Papers</b>	
The Present Condition of Government Railway Crossings and its Accidents. <i>By Kōiti Fuziwara, C. E., Member.</i> .....	1277
On the Standard of Quality Comparison in the Channel Way Hydroelectric Power Spots. <i>By Seiki Arisaka, C. E., Member.</i> .....	1301
The Relation between the Compressive Strength of Concrete, its Executing Season and its Curing Method. <i>By Masao Ueno, Member.</i> .....	1319
<b>Notes on Matters of Interest</b> .....	1327
<b>Abstracts of Selected Articles</b> .....	1335
<b>Current Notes</b> .....	1363
<b>Engineering Literatures</b> .....	1373
<b>Patent News</b> .....	1381
<b>New Publications</b> .....	1383

## OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十四年十一月二十五日印刷  
昭和十四年十一月十一日發行  
（每月一週一日發行）  
土木學會誌  
第十一卷